

様々な課題が山積、苦戦が続く

7月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

梅雨明けの遅れや夏物商品の需要の伸び悩み、競争激化、受注量の減少等、多くの業種が苦戦を強いられている。こうした中、業界の景況感が改善しないながらも、企業努力により消費喚起を行う姿も散見される。

製造業	食料品		パンは消費量が伸長している中、消費者ニーズへの対応力が課題である。製麺は取引先からの値下げ圧力が大きく、依然厳しい状況である。食肉は豚の成育不足による、と畜頭数の減少を加工業務で補う。
	繊維・同製品		桐生織物は夏物関連が予想以上に苦戦している。伊勢崎織物は組合員から人材確保の相談があるなど、後継者問題が課題である。繊維製品は受注が極端に減少している中、バーゲンセールが前倒しで開催されている状況である。
	窯業・土石製品		生コンは前年割れが続くも、前橋や高崎等の県央地域を中心に回復傾向にある。コンクリート製品は公共・民間を問わず工事の発注量が減少し、苦境に立たされている。砕石は景況感の悪化傾向に歯止めがかからず。
	機械・金属		円高を背景として、引き続きコストダウン要請等がある中、需要は減少傾向にある。富士重工関連は秋のフルモデルチェンジの実施に向け、北米進出企業が対応に追われる一方、国内では企業間で仕事量に格差が見られる。
	その他の製造業		木材は原料である丸太の供給不足が続く厳しい状況である。印刷は受注の減少により新規受注獲得に向けた営業活動が必須になっている。ゴムは売上・収益の悪化が続く中で、積極的に新分野に進出し活路を模索する企業が散見される。
非製造業	卸売業		太田の建材資材卸は、大口取引先がメーカーとの直接取引を開始し、売上・収益ともに大きく減少するなど、今後も中抜き現象の増加を危惧している。農産物卸は夏野菜を中心に順調な出荷となるも、安値相場が続く。
	小売業		燃料小売は元売の経営統合を見据え、元売販売子会社がシェア拡大のための安値乱売で、地場経営の給油所は苦戦している。生花小売は天候不順も重なり需要停滞が目立つ。商店街はイベントにより集客増となるも、波及効果に偏りがある。
	サービス業		草津温泉は価格の見直しにより売上が増加している施設も見られ、平日の稼働率も上昇傾向にある。不動産取引は太田市域において、太田駅周辺の再開発プロジェクトの相乗効果等もあり、取引が増加するなど好調に推移している。
	建設業		解体工事は夏休み期間を利用した学校関係工事が増加している。電気工事は梅雨明けが遅れたことで、エアコンの設置及び取替工事の件数が想定より伸び悩み。塗装工事は大型物件の受注も少なく、仕事量は引き続き減少傾向にある。
	運輸業		梅雨明けが遅れた影響により月の前半の荷動きが鈍かった一方で、後半以降は一部で車両の手配が困難になる状況も見られた。小型運送は全般的に動きが鈍く、自動車部品関係及び食料品関係の輸送が大幅に減少している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 109.7(前月比▲0.2%)「県統計課・6月」
- 住宅着工戸数 1202戸(前年同月比+16.4%)「県建築住宅課・6月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.45倍:有効1.96倍「群馬労働局・6月」
 - 大型小売店販売額 193億円(前年同月比+3.5%)「経済産業省・6月」
 - 消費者物価指数(全国) 103.0(前年同月比▲0.6%)「総務省統計局・6月」
- 〈鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数〉